京都教区時報

Home Page http：//www.kyoto.catholic.jp　4345

京都教区広報委員会
（編集長　村上透磨）
京都教区本部事務局
京都市中京区
河原町通三条上る
TEL 075－211－3025
FAX 075－211－3041
honbu@kyoto.catholic.jp

3頁　教皇フランシスコの訪日メッセージに応えて
4頁　乾隆神父のイタリア留学記(1)

点訳版「京都教区時報」〈無料〉ご希望の方は点訳ネット「レジナ」代表嶽崎(たけざき)裕子さんまでお申込みください。
TEL・FAX 079－431-8601

2020年　司教年頭書簡を読む(4)

愛の力

教皇フランシスコは、使徒的勧告「キリストは生きている」のなかで、次のように述べられています。

「このかたは愛です。それは、くじかせることのないものです。辱めることも威張り散らすこともしない愛です。それが主の愛、日ごとの、控え目で、丁寧な愛、自由な愛であり自由ゆえの愛、いやして元気づけてくださる愛。転倒よりも再び起き上がることのほうを見てくださる。禁じることよりも和解を望む、罪に定めるよりも新たなチャンスを与えようとなさる、過去よりも未来をご覧になる、主の愛です」。

教皇フランシスコの訪日を、過去のものにしてはいけません。私たちは、現代の日本の社会のなかで、福音のあかしをするように求められています。私にはできませんと、言わないでください。主の愛の力が私たちのうちに働いておられます。

「福音宣教」は、司祭やシスターの専売特許ではありません。現代社会に生きている信徒こそ、その第一の実践者です。

瀧野正三郎

5
2020

すべてのいのちを守るため
～教皇フランシスコ訪日講話集～ を読む②

[神の言葉の持つ力・神との出会いへと]

神の言葉の持つ力と、対話の大切さに注目してみることにします。

講話集のはじめに、菊池司教は述べています。「教皇の語られたすべての『言葉』は、今回の訪日のテーマである『すべてのいのちを守るため』という強い信念を、具体的な『言葉』として紡いだものでありました。語られた『言葉』の背後に確固たる信念があるからこそ、その『言葉』は多くの人の心に力強く響きわたりました。イエス・キリストへの信仰に基づいた確信であり、だからこそ語られる『言葉』は、いのちの重さを背負った『言葉』でした」。

ここで注目したいのは、それが「経験に基づく」とは言わずに、「イエス・キリストへの信仰に基づいた」とある点です。

信仰者として大切なのは、「いのち」を得るためには正しく深い信念を持って聞き、みことばを、いのちとすることに始まるのです（参照　ヨハネ5・24、1・1～15、ロマ10・17）。

ですから、デジタルの世界に飛び出して行く様な言葉ではなく、神の言葉を聞くために（マルコ7・31～37）神に耳を開いてもらわねばなりません。

神の出来事を見るために、神に目を開いてもらわねばなりません（マルコ8・22～26、10・46～52、ヨハネ9章）。

何故なら、その後に起こる「いのち」を「救い」へと招く出来事は理解しがたい神秘を秘めているからです。でなければ、その神秘「いのちの源」に達することはできないのです。

イエス・キリストの助けがなければ、その神秘は掴めません。対話もまたそうです。対話とは「言葉を通しての出会い」とも言えます。

教皇は、「いのち」と「救い」について、「対話の文化」、「兄弟愛の文化」、そして、宗教的対話と説いておられます（ビデオメッセージと司教団への挨拶）。即ち、言葉を通しての出会いです。

対話は人格的な出会い、宗教的な対話に限りません。自然と環境との対話(和)を呼びかけておられます。教皇は美しい日本の自然を愛し、それが福音的な輝きを持つ様に願っておられます。

対話について一つ思い起こしておきたいことがあります。

対話はまず、相手に対し心を開き、相手を尊敬と愛と謙虚のまことを持って、「聞く」ということから始まります。

「聞き方」には三つあると思います。

「ただ聞く（馬耳東風）」

「注意して聞く（興味を持って聞く）」

「心の目を開いて聞く」

二人の間で交わそうとしていることを「ダイアローグ」と呼ぶようですが、この言葉は「会話を通して」と記すべきではないかと思います。言葉を通して人の「心」に出会うのです。神様との出会いでしたら、神のいのちの言葉を通して神と「一つ」になるのです（コミュニケーション）。

「見方」についても三つあると思います。「ただ見る」、「注意深く見る」、「心の目で見る」（ヨハネ20・1～9）。復活されたキリストに出会うには、この信仰の目が必要なのです。

神の神秘の言葉の「コト」を見るには、信仰の目を開いていただかねばなりません。この信仰の目と耳が開かれた時、神

との対話と出会いが生まれるというのです。

さらに、人と人との出会いも、この神との出会いを通して実現します。それは人間が神の姿に似せて造られたからです。また、人間が神の息吹（いのち）によって生かされているものだからだと、私は思います。

神と人との対話の根源は、その創造にさかのぼることになります。

村上透磨

教皇フランシスコの訪日メッセージに応えて

教皇は、青年との集いを通して、今を生きる青年たちに向けて次のような様々な問いかけをされました。わたしは、教皇の呼びかけに応えていきたい。そのために何が必要であるか、どのように働きかけていくことができるのかを考えています。

●「自分にとって、最悪と思う貧しさは何だろう。自分にとっていちばんの貧しさは何だろうか」

教皇がおっしゃったとおり、わたしにとってのいちばんの貧しさは、孤独です。誰も気にかけてくれないこと、誰にも愛されないことが最悪の貧しさです。

この日、わたしは一人で東京に行く予定でしたが、その先ではたくさんの青年たちと出会うこと、再会することができました。あっという間に仲間たちが集い、安心させてくれました。わたしのことを気にかけてくれる誰かがいること、また、愛されていることを実感し、とても幸せだと思いました。

こうして、教皇が繋いでくださったように、わたしも一人でいる誰かが安心できるよう、人と人とを繋ぎたい。わたしが繋がりたい。そのために、今、カトリックの様々なグループに顔を出し、まずはわたしがネットワークを広げること、誰かと繋がり、愛をもって関わっていくこと、そして、わたしとみんなが安心できる居場所をつくることに取り組んでいます。

●次の問いを問うことを習慣としてください。「何のために生きているかではなく、だれのために生きているのか。だれと、人生を共有しているのか」

教皇は「世界はあなたを必要としている、それを決して忘れないでください。主は、あなたを必要としています」とおっしゃっています。目標をみつけた今、わたしは、孤独を感じている人のために生きていきたいです。でも、まずは身近なところから…家族や友だちがわたしを必要としてくれているだろうと信じて、信頼できる仲間たちと人生を共有していこうと思います。

最後に。今、わたしは京都カトリック青年センターでたのしい時間を共有するための企画、運営をしています。また、望洋庵でお祈りをしたり、働く人の家で人生を共有したりと、それぞれに異なるねらいをもった場所に足を運んでいます。

伊勢教会　濱口聡子

乾隆神父のイタリア留学記(1)

京都教区司祭　大塚乾隆

教区時報五月号の原稿の締め切りは三月二十五日。少し前なら、二ヶ月先のことを予想することは難しくありませんでした。しかし、今は二ヶ月先「コロナウイルスの問題」がどうなっているか全く分かりません。イタリアにいるので、日本から心配のメールをたくさんいただきました。しかし、私がいるペルージャ（ウンブリア州）は比較的感染者が少ないので、大きな混乱はないように思います。三月半ばからレストランやお店が休業になり、「今までできたことができなくなった」という点で、生活に不便は感じています。半年前に日本を発った時点で、私の好きな銭湯や日本の食べ物とお別れをしてきました。銭湯に行きたいなとか、○○が食べたいなという思いはあってもどうしようもありません。「ないものはないのだから、その中でどう楽しむか」を考えています。今、ピザを食べに行くこともできない、バーでコーヒーを飲んでおやつを食べることもできない、どこかに出かけることもできない…と「できない」ことだらけです。このように書くと、追い詰められているように思われるかもしれません。でも、数ヶ月住むことで少しは「イタリア化」したのでしょう。そこまで心配していません。

コップに半分の水があるとき、半分しかないと考えるのではなく、多くのイタリア人のように半分もあると考える方が性に合います。色々なことが制限されていく中で、「あれができない、これができない」と腹を立てるのか、「あれができないなら、これをしよう」と考えるのか、私は後者の生き方を選びます。基本的に、外に出て人としゃべるのが好きなイタリア人が、外出禁止を言い渡され、人との距離を１mとらなければならないというのは「犠牲」以上の何物でもないでしょう。しかし、ホッとしたのは、イタリア人のメンタリティーは変わっていなかったことです。「外に出られないなら、出られるところで騒ごう」と、みんながバルコニーで歌を歌い、楽器を鳴らし、踊り…根っからの明るさを感じることができました。日本でも自粛モードになっているようですが、心まで自粛しなくても良いと思います。また、何に喜びを見つけるのか、振り返る機会にもなると思います。

ペルージャでの生活を紹介します。月曜から金曜は語学学校に通っています。基本的に毎日ミサもしますが、色々な場所で必ず誰かと一緒にするようにしています。教区司祭として私は信徒の皆さんとの関わりを大切にしたいからです。私の拙いイタリア語の朗読や説教を「ブラボー」と言って聞いてくれるイタリア人の国民性に感謝しています。

（この記事は三月二十二日に送られて来たもので現在の状況とは異なります。）

主の降誕の夜半ミサ

病者・高齢者奉仕講座「命を尊ぶ」

「キリストの死と復活」

講師　菅原友明師
（京都教区司祭）

●「老い、病、死」と宗教

江戸時代の流行り歌にこんな歌があります。「しあわせは、いつも三月花の頃。お前十九で私（わし）や二十（はたち）歳。死なぬ子三人、親孝行。使って減らぬ金百両。死んでも命がありますように」。この歌のように若く健康で楽しい毎日が永遠に続くならこの世に宗教は必要ないでしょう。しかし私たちはいずれ病気になり、年老いて、死に行く者となると、自分はどうなるのかを深く考えます。そして先に結論を言うと、高齢になり病気になって死んでいく、この十字架が復活であり救いであるということです。十字架がそのまま復活であることに、人々のまなざしを向けるのが宗教です。

●人間は何によって生きているのか

強制収容所での過酷な体験を書いた「夜と霧」の著者であるヴィクトール・フランクルは次のように言います。「人間はどんなに辛い過酷な状況にあっても希望さえあれば生きていける。生きるために希望が、言い換えれば生きる意味が見いだせれば人は生きていける。人生に意味があるのなら教えてほしいと問うが、そうではなく人生が人間に問いを発している。人生からの問いは各人の足下に絶えず送り届けられていて、その人に見いだされ実現されるのを待っている。従って、どんな時も人生には意味がある」。若い時はたくさんの、この世的な希望があります。でも誰もがいつか必ずこの世に何の希望もなく、苦しみ死ぬだけという状態になります。その時にどういう希望を見いだすことができるのか。これが病者・高齢者に向き合う時に大切なことです。

●キリストの死と復活

マルコ福音書は八章のペトロの信仰告白を境に〈第一部〉と〈第二部〉に分けることができます。〈第一部〉で多くのいやしや奇跡を行うイエスを見たペトロは、〈第二部〉の最初に「あなたはメシアです」と信仰告白します。しかしその直後に受難予告がされるとイエスをいさめ始めます。ペトロに対してイエスは、あなたの思いは人間的な希望なのだと言い、神の目的である希望を抱くように導かれます。私たちも、人間的な希望を満たし実現していく人生の〈第一部〉から、必ず〈第二部〉の十字架へと移行していくのです。キリスト教の教えは「キリストの死と復活」です。人間の目には十字架しか見えなくても、十字架と復活は全く同じことなのです。

「終末期に寄り添い、看取るということ」

発表　西川加之子氏
（看護師・カトリック看護協会・河原町教会信徒）

●終末期に起こること

〈終末期を在宅で看取るための「大切な3つのこと」〉というものが京都地域包括ケア推進機構から出されています。

①かかりつけ医に最期までについて相談する
②ご本人とご家族みんなでしっかりと話し合う
③ご本人の身体にこれから起こることを知っておく

今回、西川さんは主に③についてお話しくださいました。

まず『看取りのパンフレット』〈2011〉（OPTIM緩和ケア普及のための地域プロジェクト出典）を紹介されました。このパンフレットは高齢者の終末期に起こることで知っておいて欲しいことが大変わかりやすくまとめられています。

この中に次のような文章があります。

・39度前後の高熱が出るときがあります。これはお別れの前に残っている力を出し切ろうとする反応です。（略）
・患者さんは体の中をきれいにしてから旅立とうとされます。そのため場合によっては、嘔吐・吐血・下血・多量の排便などが起こることがあります。

（傍線は編集者加筆）

これを読んで西川さんはとても反省したと言います。それまでこの様な状態の患者を見れば、体が機能不全を起こしていて死が近いとしか思わなかった。それは事実だけれど、傍線部分のような考え方はなかった。医者（看護師）は体は見ても人は見ないと言うが、まさに自分がそうだったと気づいたそうです。

●看取りは次の命への橋渡し

そして、ご自身の祖母の旅立ちの時、母親と一緒に祖母に留袖を着せた、それは「次の命へのお輿入れ」の意味だったというエピソードから、キリスト信者にとってまたカトリックナースとして看取るということは、この世の終わりのケアではなく、次の命を生きるための橋渡しをする役割ではないかと思っていますと言われました。

●看取りの時にして欲しいこと

パンフレットの内容に加えご自身の経験から、顔や手を拭いた後は必ず乳液などで保湿し、リップクリームで唇の乾燥を防いであげると、終末期の旅立ちのお化粧がとてもきれいになるそうです。

●終末期における家族の判断について

終末期において、胃ろうの造設、在宅介護か施設介護か等、判断しなければならないことが色々あります。では誰が判断するのでしょうか。西川さんは実際の看取りの実例を紹介し、またご自身の介護経験も踏まえ、本人の意思決定が難しい場合、元気だった頃の考え方を尊重し、家族が決定する。答えは各家庭によって違うので正解はない。介護をしているキーパーソンの意見も尊重して欲しい。いずれの決断をしても家族みんなで「最善を尽くせた」という達成感があれば、悔いが残ることは少ない。看取りの場合の介護方針は本人が「つらくない」ことを一番に考えてください、と語られました。

講話の後、「私は病気・死をどう受け止めるのか」というテーマで分かち合いを行い、祈りの時をもちました。受講者からは「とても参考になった」、「終末期にどういうことが起きるのか具体的に分かった」、「喜びをもって介護を続けられます」との声を多数いただき、意義深い講座となりました。

福音宣教企画室

5月のお知らせ

教　区

聖書委員会／Tel.075(366)6609 ㊌㊍

聖書講座

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、今年度11月までのすべての講座を中止いたします。

よく分かる聖書の学び

当面の間、休止いたします。再開が決まりましたら、京都教区のホームページにてお知らせいたします。

諸　団　体

京都キリシタン研究会

都の聖母奉賛ミサ

日　時：10日㊐ 14:00～16:00(予定)
会　場：河原町教会地下聖堂

- 公共交通機関でおいでください。
- ミサ後、交流の集いをホールで開催します。
- ご希望の方には将軍塚への巡礼をご案内いたします。

参加自由／問合せ：090(2381)4630 古澤

京都カトリック混声合唱団

練　習：10日㊐ 14:00 洛星宗教研究館
23日㊏ 18:00
ミサ奉仕後 河原町教会聖堂
31日㊐ 14:00 洛星宗教研究館

コーロ・チェレステ(女声コーラス)

練　習：7日㊍ 10:00／21日㊍ 10:00
28日㊍ 10:00
河原町教会聖堂2階楽廊

聴覚障がい者の会

手話ミサと交流会

12日㊋ カトリック彦根教会にて開催予定でしたが中止になりました。

カトリック京都働く人の家(九条教会内)

定例会：10日㊐ 15:30～17:30
対　象：15歳～35歳の方　どなたでも
問合せ：090(8207)1831 瀧野

心のともしび　番組案内

ラジオ(KBS京都)　㊊～㊎ 朝5:55 ㊏ 朝5:15
(ラジオ関西) ㊊～㊎ 朝5:00 ㊐ 朝6:05
5月のテーマ「親と子ども」

6月のお知らせ

京都教区カトリック正義と平和協議会

／Tel.075(366)6609 ㊍

学習会「多国籍共同体を生きる」

日　時：6日㊏ 14:00～16:30
講　師：アントニオ・カマチョ師
会　場：河原町教会 ヴィリオンホール

京都教区神学生の出水洋氏が、3月28日㊏河原町教会で、大塚司教より、「助祭・司祭候補者認定」を受けられました。

聖パウロ学園について

4月1日付で、カトリック校としての認可を受け、名称変更しています。

＊光泉カトリック中学校
＊光泉カトリック高等学校
〒525-8566 滋賀県草津市野路町178
TEL. 077(564)5600(代)
FAX. 077(564)5136(代)

＊光泉カトリック幼稚園
〒520-2131 滋賀県大津市三大寺9-1
TEL. 077(545)3410

教区広報委員会からのお知らせ

※ お知らせに載せたい情報は、原稿締切り日までに教区広報委員会宛に Fax.075（366）6679 か honbu@kyoto.catholic.jp に発信者のお名前を明記してお寄せください。
尚、電話番号が変更になっています。

※ **7月号の原稿締切り日は5月27日㊌です。**

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が懸念されますので、記載された行事等開催の是非につきましては、諸団体に直接お尋ねくださいますようお願いいたします。

大塚司教の 5月のスケジュール

Schedule of Bishop Otsuka

3日㊐ 9:00 桑名教会
7日㊍ 16:00 青少年委員会(河原町教会)
10日㊐ 9:00 八幡教会ミサ
12日㊋ 13:00「求道者に同伴する信徒」養成講座 ミサ
13日㊌ 13:00 特別臨時司教総会（中央協議会）
14日㊍ 9:00 常任司教委員会
15:00 東京カトリック神学院 常任司教委員会(中央協議会)
17日㊐ 14:00 松阪教会 英語ミサ
19日㊋ 14:00 (社福)カトリック京都司教区カリタス会 理事会
20日㊌ 10:30 長岡カトリック幼稚園 竣工祝別式
15:00 司教顧問会
21日㊍ 14:00 (学法)カトリック京都学園・京都南カトリック学園 理事会
22日㊎ 13:30 四日市メリノール学院 理事会・評議会
23日㊏ 10:30 小教区評議会役員研修会（河原町教会）
24日㊐ 10:00 衣笠教会ミサ
27日㊌ 10:30 司祭・司牧者集会
15:00 司祭評議会
28日㊍ 15:00 (学法)滋賀カトリック学園 理事会
29日㊎ 14:00 チェジュ交流部会
30日㊏ 10:30 聖母の小さな学校創立30周年感謝ミサ(西舞鶴教会)
31日㊐ 10:30 桃山教会ミサ

運営委員紹介①

去年に引き続き、三重地区の運営委員としてお世話になります。青年向けのイベントをさらに盛り上げて、より多くの人に青年活動の良さを知ってもらえるよう頑張ります。

（三重地区・西院教会　**粟井　幹**）

９年目となりますが、時代の流れや一緒に活動する青年の個性とともに、めまぐるしく変わる青年センターの雰囲気は、今も、いつも新鮮だと感じます。フレッシュでパワフルな青年の姿を、楽しさを、小教区の皆さんと分かち合えるよう、本年もがんばっていきます。よろしくお願いいたします。

（三重地区・伊勢教会　**濱口　聡子**）

運営委員会のメンバーとして２年目に突入いたしました。これからもより青年の活動が活気付くよう、頑張ります。

（滋賀地区・唐崎教会　**松井　美奈**）

青年センターの「つなごうネットワーク 深めようコミュニケーション」という理念をもとに、今年も各地の青年や小教区の皆さんのつながりを大切に、活発に活動していきたいです。よろしくお願いします。

（滋賀地区・唐崎教会　**新田理紗子**）

〔青年センターHP〕 携帯からでもご覧いただけます。 http://www.kyoto.catholic.jp/seinen/

青年センターあんてな